

2007年度 明治大学人文科学研究所「公開文化講座 山形」概要

テーマ	『山形県の民俗芸能——「番楽」の世界』
日時	2008年1月13日(日) 午後1時より
場所	山形市 遊学館ホール
講師	明治大学名誉教授 原 道生 明治大学教授・人文科学研究所長 居駒 永幸
コメンテーター	東北芸術工科大学准教授 菊地 和博
実演	稲沢番楽保存会(山形県最上郡金山町)
聴講	無料(事前申込み必要なし)
後援	山形県教育委員会、山形市、金山町教育委員会、真室川町教育委員会 遊佐町教育委員会、山形新聞社、山形放送、NHK山形放送局 明治大学校友会山形県支部(後援はいずれも依頼予定)

ごあいさつ

公開文化講座開催委員会委員長 越川 芳明

今年度の学外公開講座では、山形県北部の山間の集落に伝わる番楽という民俗芸能を取り上げます。番楽とは江戸時代初期、鳥海山周辺に山伏が伝えた芸能で、能の流れをくむ古風な舞の姿を残していると言われております。とりわけ「金巻」という演目は、能や歌舞伎で上演されるものと類似し、そこにはそれがどのようにして番楽に取り入れられたかという興味深い問題があります。

現在、番楽は山形県に6箇所しか伝えられておらず、しかも県の北部地域に限られているため、一般の人にはあまり知られておりません。このような状況を踏まえ、山形県の人々にこのすぐれた民俗文化を広く理解していただくというのが、この公開講座の第一の目的です。そのためには実際に鑑賞していただくのが一番ですので、最上郡金山町の稲沢番楽保存会に「金巻」など数演目を上演していただきます。講演では、「金巻」における能や歌舞伎との関係、番楽の調査に基づく研究成果の報告を行い、聴講者との交流も図っていきたいと考えております。

以上のように、「金巻」を中心として番楽の世界を紹介し、地元の稲沢番楽保存会による実演を通して、山形県に伝わる番楽というすぐれた民俗文化に触れる機会にしていきたいと思っております。

【公開文化講座次第】

1:00~1:20	開会の辞	越川芳明委員長
	挨拶	居駒永幸人文科学研究所長
1:20~2:30	講演1	居駒永幸「山形県の民俗芸能——「番楽」の世界」

- コメンテーター 菊地和博氏 (10分)
- 2:40～3:40 実演 稲沢番楽保存会「口上」「神舞」「獅子舞」「おかし舞」「金巻」
- 3:50～5:00 講演2 原道生「能・歌舞伎・番楽の金巻について」
コメンテーター 菊地和博氏 (10分)
- 5:00～5:10 閉会の辞 永藤靖 公開文化講座開催委員会委員

山形県の民俗芸能——「番楽」の世界

明治大学教授 居駒 永幸

山形県は民俗芸能の宝庫と言ってよい。その中でも、江戸時代初期に山伏が教えたという番楽は、古風な舞の面影を留めるものであり、長い期間にわたって舞のわざを大切に保存してきた村人の心が偲ばれ、見る人にいとおしみさえ感じさせる。

現在、山形県の番楽は6箇所しかない。私は地元のご協力により、ゼミの学生とともに3年間にわたって山形県の番楽を調査し、報告書をまとめる機会に恵まれた。6箇所とは、最上郡真室川町の平枝・釜淵・八敷代、同郡金山町の稲沢・柳原の番楽、そして飽海郡遊佐町の杉沢比山である。それらの地域で聞き取りを進めていく中で、太夫や師匠として若い舞手を指導する古老に貴重な話をうかがうことができた。また、未紹介の言立本（せりふや歌の台本）に出会うという幸運もあった。

番楽を伝える村にはそれぞれに由来の伝承がある。例えば、平枝には三番叟の面を四百年前のものとする言い伝えがある。釜淵では「釜淵番楽、矢島百宅三拍子」と言い、秋田県の矢島町から伝えられ、他と違って太鼓は三拍子だという。稲沢の場合は神室山の山伏が里に伝えたものと秋田県の本海系とが融合した番楽と伝える。稲沢では毎年雪深い正月元日に、村の公民館で8演目を舞う。その中の「金巻」は山伏が邪悪な蛇を斬るという、山伏の験力を強調する興味深い演目である。冬の公演と言えば、釜淵や八敷代でも最近復活した。柳原には筆書きの言立本が保存されていた。それは31演目を記す貴重な資料である。国指定の杉沢比山は鳥海山麓に伝えられた舞で、14演目をいまに伝える。特に「翁」は能を思わせる幽玄の舞である。

番楽は能や幸若舞など中世の典雅な舞を受け継ぎつつ、軍記物や武士を題材とする舞や農作に通じるおかしみの舞を加えた、味わい深い民俗芸能である。それは伝承する人々のたゆまぬ努力によって芸が磨かれ、生活の中で楽しむ舞として大切に保存されてきた。しかし、伝承地が秋田県との県境に近い、山形県の北部地域に限られているため、一般の人にはあまり知られていない。そこで本講演では、以上の6箇所の番楽を紹介し、番楽を伝えてきた人々の心に触れながら、このすぐれた民俗文化を広く理解していただく機会にしていきたいと思う。

〔参考文献〕『真室川〈平枝・釜淵・八敷代〉の民俗』（平成17年度明治大学居駒ゼミ調査報告書、2006年）、『金山〈稲沢・柳原〉の民俗』（平成18年度同報告書、2007年）、『杉沢の民俗』（平成19年度同報告書、2008年発行予定）、居駒『東北文芸のフォークロア』

(みちのく書房、2006年)。

居駒 永幸 (いこま・ながゆき)

1951年山形県村山市生まれ。国学院大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。羽陽学園短期大学助教授を経て、現在明治大学経営学部教授。人文科学研究所長。専門分野は日本古代文学、日本民俗学。主要著書に『古代の歌と叙事文芸史』(笠間書院、2003年、志田延義賞受賞)、『東北文芸のフォークロア』(みちのく書房、2006年)。

番楽の「金巻」をめぐる一能・歌舞伎の「道成寺」との比較一

明治大学名誉教授 原道生

稲沢番楽の「金巻」は、女人禁制の奈良の寺に参詣に来た旅の女が、鐘の緒にからまれて蛇身になるのを、山伏の手で退治されるという展開のものとなっています。これは金山町教育委員会編の『稲沢番楽』の解説にも推定されている通り、「道成寺伝説」を基盤とする芸能の演目の一つと考えてよいでしょう。

周知のように、「道成寺伝説」の概要は、熊野参詣を志す美男の僧が、途中たまたま宿とした家の女に懸想されたのを拒絶したところ、怒った女が大蛇と化して男の跡を追い、彼が逃れ隠れた紀州の道成寺の大鐘に巻きついて、中の男を焼き殺してしまうというもので、女の恋の執念のすさまじさを印象づける話として、広く日本の文学。芸能・美術等々に、多くの題材を提供してきています。

ところで、この「道成寺伝説」が、歌舞を伴う芸能の分野に取り入れられる際に見られる大きな特色としては、女が男を追いかけて恨みを晴らすという眼目の部分を演ずることはあまりなく、むしろその大半が、そこでは語られていなかった後日譚、すなわち、縦横記の出来事の後、道成寺では、失われた鐘を再建することとなり、そのための供養をしている女人禁制の場に、一人の女が訪れてきて鐘への執念を示すという設定のものになっている点をあげることが出来るでしょう。恐らく、番楽の「金巻」も、それと共通する構想のものと思われる。

今回の講演では、古典芸能における代表的な道成寺物の演目として、能の「道成寺」と歌舞伎の「京鹿子娘道成寺」を取り上げ、それぞれの鐘供養の場に仕組まれている特徴的な演技・演出の幾つかを、映像を通して紹介しながら、当日実演された「金巻」との比較を試みたいと思います。時間の都合で、ごく限られた場面しかお見せ出来ないのが残念ですが、長い歳月にわたって地域に伝えられてきた「金巻」の素朴な力強さに比べて、中世幽玄の雰囲気の内に入れられている恋の情念の烈しさや、江戸の庶民を楽しませてきた華麗で多彩な女形芸の艶やかさなどの違いを、参加者御自身の目で確かめていただければ幸いです。

略歴：1936年東京都生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得。横浜市立大学文理学部助

教授の後、明治大学文学部教授に就任、文学部長、図書館長を経て、現在明治大学名誉教授。専門は「演劇を中心とする近世日本文学」。

主要著書：『近松門左衛門（新潮古典文学アルバム）』『近松浄瑠璃集（新日本古典文学大系）（共著）』など。

菊地和博・東北芸術工科大学准教授の紹介文

菊地 和博（きくち・かずひろ）1949年、山形県東根市生まれ。法政大学文学部哲学科卒業。専門分野は日本民俗学、民俗芸能論。山形県立高校の社会科教員、山形県立博物館学芸員を経て、現在東北芸術工科大学准教授。主要著書に『庶民信仰と伝承芸能』（岩田書院、2002年）、主要論文に「東北の歴史風土とシシ踊り」（『季刊東北学』第12号、柏書房）。民俗芸能や祭り・行事などの民俗文化をその地域の歴史風土のなかで捉え、地域活性化とともに継承・発展できる道を模索している。

稲沢番楽保存会

稲沢番楽は、霊峰「神室山」の山伏が里に下りてきたときに舞ったもので、600年の歴史をもつといわれております。

大正時代から昭和30年代までは、村の花形スターのごとく隆盛を極めた時でしたが、時代とともに衰弱し、消滅の危機感さえ漂いはじめましたが、昭和39年に村全戸加入による保存会を結成して今日に至っています。

昭和59年には地元の有屋小学校100周年に合わせ、日本生命（財）の助成を受けて少年番楽を結成し、後継者の育成にも力を注いでいます。

平成6年10月に「金山町無形民族文化財」、平成14年5月には、「山形県指定無形民族文化財」の指定を受け、番楽のみならず、番楽の活動を通じながら、地域づくり・青少年の健全育成に積極的に関わっています。

現在は、正月元旦、元朝祝いとして稲沢研修センターで上演し、村人が大勢集まりにぎわっています。また、以前は旧暦の6月28日に上演しておりましたが、近年では8月14日に固定し、村内龍馬山不動明王祭と合わせて稲沢研修センターでも行っております。その日の午後は、無病息災・五穀豊穰を祈願しながら、獅子頭と囃子が村内中を舞って歩きます。